

東京藝大ジュニア・アカデミーの1年



学期	前期						後期					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
通 常 開 講 日	月 2 回の実技レッスン (1 時間)											
	ソル フェージュ (50 分のクラス授業 2 コマ)											
特 別 行 事	●開校式 (4 月)						●室内楽 (冬季) 特別レッスン					
	●室内楽 (夏季) 特別レッスン						●成果 披露演奏会 (3 月)					

東京藝大ジュニア・アカデミー

Q&A

ジュニア・アカデミーの通常開講日

1. 専攻実技レッスン

Q. 藝大の上野キャンパスで月に2回行われる実技レッスンでは、どのような先生に習うことができますか？
主に現役の教授・教員に加えて名誉教授の先生方がジュニア・アカデミー講師として指導にあたっています。アカデミー生は全国各地から上野に集まりますが、地元で師事している先生のレッスンをそのまま継続しながら、その上で月2回ジュニア・アカデミーのレッスンを受講する形になります。

Q. 入学後は、習いたい先生を選ぶことはできますか？また、途中で先生の変更はできますか？
基本的に、アカデミー内で実技担当の講師陣が検討して担当講師が割り振られます。ただ、先生方の話し合いにより、年度替わりや、あるいは年度途中でも担当講師の変更はあり得ます。また先生方のご都合によって臨時に他の先生のレッスンに変更になる場合もあります。

Q. 月2回のレッスンというと、どのようなペースで曲を仕上げていくのでしょうか？
曲の完成度、勉強内容の達成度を先生方が個別に判断して進めていきます。

Q. 希望すればコンクールを受けることはできますか？
ジュニア・アカデミーでは、基本的に長い目でみた教育が大事だと考えていますが、本人の希望、地元の先生のご指導、ジュニア・アカデミーの先生のご判断により、参加を認める方向です。ただ、コンクールの数や種類が今はとても多くなっていますので、どれを選択するかは慎重に考えてもらいたいと思います。

Q. ジュニア・アカデミーのレッスンでは、アカデミー生同士レッスンを見学できますか？
はい。他の人たちの演奏や、普段と違う先生のご指導を第三者的に聴くことは、自分の中にありながら気が付きにくいことを呼び覚ます貴重な機会です。さまざまな曲を知ったり、表現の多様性を知ることにもつながります。

Q. レッスンには保護者が同伴できず録音録画もできないシステムだと聞きました。その理由を教えてください。
なるべく若い内に、指導された内容をその場で把握しようとする力を養ってもらいたからです。判りにくいことがあった時には自分で先生に質問をするということも大切だと考えています。レッスン後に教わったことや気が付いたことを自分でメモするよう習慣にするといいかもしれませんね。

2. ソルフェージュの授業

Q. ソルフェージュの先生は、どんな方なのでしょう。
実技レッスンと同じで、やはり藝大や藝高で実際に教えていらっしゃる教授・教員の先生方が担当なさいます。

Q. ソルフェージュをこれまで習ったことがないのですが、大丈夫でしょうか？
入学後に初歩的なことから教えます。アカデミー入試の出願時点でソルフェージュ経験がなくても審査には影響しませんが、小さい時からその重要性を知ってもらいたいと思います。

Q. ソルフェージュのクラスはどのように決まりますか？
年度ごとにクラス分けテストが行われ、3～4クラスに分かれて受講します。

Q. ソルフェージュの授業はどのような内容ですか？
聴音や楽典など音楽知識の大本となることや、初見視奏について取り上げることもあります。初見は、知らない楽譜を数分、目だけで追って弾く作業です。大事なことから何よりも楽譜に親しみ、その内容に想像を働かせて興味を起こさせることを主眼に置いています。頭の中で響きのイメージをつくることはとても大事な要素で、そのための準備と訓練でもあります。

ジュニア・アカデミーの通学

Q. ジュニア・アカデミーには日帰りできますか？東京に泊まらないといけない場合もありますか？
基本的には、公共交通機関の利用によって日帰りできるのが望ましいと考えています。そのため、入学後はその年度の在籍生の居住地も勘案して、レッスンの時間割を講師と事務局で検討しています。ただ、室内楽レッスンや成果披露演奏会など連日のスケジュールがあるときは、宿泊が必要な場合もあります。

Q. 遠くから東京まで中学生が通うにあたり、保護者の心配も大きいのでは？

アカデミー生が藝大に到着した時、そして退学する時に、事務局から自動的にご家族のもとにメールでお知らせが属システムを導入しています。特に遠方からの通学にかかる負担に対しては、ジュニア・アカデミーの主旨にご賛同いただいた財団や篤志家の方の支援により、現状では通学距離別に交通費の一部を補助する奨学金制度を設けています。

ジュニア・アカデミーの特別行事

Q. 演奏発表の機会はありますか？

藝大構内のホールを利用して、室内楽の発表会や、年度末の成果披露演奏会を開催しています。成果披露演奏会では、多くの一般のお客様にも聴きいただいています (2020 年度より新型コロナウイルス感染予防対応により来場を限定させていただいております)。

Q. 藝大所属のプロオーケストラ「藝大フィルハーモニア管弦楽団」と共演できるチャンスはありますか？
成果披露演奏会では、アカデミー生の中から選抜されてソリストに登用される機会があります。早期段階でのオーケストラ共演は、アカデミー生に大きな刺激と成長を与えてくれています。

Q. 室内楽レッスンの内容、体制を教えてください。

夏季と冬季、年に2回室内楽の特別レッスンが行われます。講師の提示する課題曲のリストから、自分の強い興味のある作品を1曲選んで練習をして、パートナーと合わせ練習したものを、室内楽の先生にレッスンしていただきます。管楽器のアカデミー生は、現役藝大生にサポートしてもらいながらレッスンを受けます。発表会の機会も設けています。

Q. 中学生だと初めて室内楽を経験する子もいるのでは？

入門として主にベートーヴェンやモーツァルトなどの作品を取り上げ、室内楽の基礎的な合わせ方から教えています。お互いのパートの聴き合い、音楽上のやり取り (会話) を通して、助演いただく先生方やアカデミー生同士の協働作業から、室内楽の基本的な接し方を会得してほしいと考えます。特にピアノ専攻生は普段一人で勉強をすることが多いので、大きな経験になります。

Q. 外国人教授による特別レッスンを受けることはできますか？

世界各国から藝大に招聘教授としていらっしゃる先生の日程、ご都合を勘案して、アカデミー生対象のレッスンもお願いしています。例えば、これまでにビエール・アモイヤル先生 (ヴァイオリン) やアナヒト・ネルセシアン先生 (ピアノ)、ヨウコ・ハルヤンネ先生 (トランペット) などにご指導いただきました (2021 年度は新型コロナウイルス感染予防対応により実施しておりません)。

Q. 進級テストや修了試験はありますか？

ありません。入学したらそのまま中学3年生の終わりまで在籍できます。

Q. 保護者面談はどれくらいの頻度で行われますか？

現状では、入学時のほか、夏休みや春休みなどに行っています。ただ、アカデミー生の体調のケアや相談事などは事務局で常時受け付けています。

アカデミー生の卒業後の進路

Q. ジュニア・アカデミーに入った場合は、必ず藝高 (東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校)・藝大に進まないといけないのでしょうか？

決してそのようなことはありません。高校をどのように考えるかは本人の希望、そしてご家族や地元の先生のお考えが第一です。必要に応じて、ジュニア・アカデミーとして助言などを行います。

Q. ジュニア・アカデミーから藝高を受けた場合、アカデミー生は入試を優遇される可能性はありますか？
それは、まったくありません。受験生全員が同じ条件で審査されます。エスカレーター式ではないということです。ただ、ジュニア・アカデミーの入試では、主に藝大の教授陣の先生方とジュニア・アカデミーの講師が審査を行っており、それを通過して入学してくるアカデミー生のレベルが高いのは事実です。しかし互いに競い合うのではなく、ともに音楽を学び合う「同志」のような空気がアカデミー生の間に流れています。とても良い学びの環境ができていると思います。

Q. 子どもたちをどのように育てていきたいか、ジュニア・アカデミーの指導方針を教えてください。
備わっている才能を重視しながら、将来専門的な勉強を続けるのに必要とされる基礎力を養うのが一番大切なことです。そのためには探究心、持続力、友人同士の交流などがとても大事だと思います。アカデミー生たちは、皆そろって「ジュニア・アカデミーに通って、音楽が楽しい」と話してくれず。北は北海道、南は九州まで全国各地から集まり、レッスン毎に目を輝かせて帰っていきます。アカデミー生には、何よりも自分自身が音楽から受ける喜びを人に伝える気持ちを大切にほしい、そして自身が演奏する喜び、自分のファンタジーを繰り広げる楽しみをもってほしいと願っています。



東京藝大ジュニア・アカデミー入校式 (2021 年度)

